

A 175 市販調理済み食品（そう菜）の品目別利用状況について

昭和女大短大 ○梶本明江 比護和子

昭和女大家政 柴田由美子 山崎雅子 杉田浩一

目的 市販調理済み食品（そう菜）は、昔ながらのそう菜をはじめ、主食的なファーストフードやデリカとも呼ばれる高級そう菜なども含めると、その種類は非常に多く、販売地区も広範囲に及んでいる。そこで、その利用の実態について調査を行なった。

方法 昭和58年7月～10月、本学学生の家庭を中心に質問用紙を配布し、有効回答2430部より、個々のそう菜について家庭における利用実態を地区別に検討した。

結果 1. 利用状況：各地区ともに、コロッケなどの揚げ物類、煮豆、焼き鳥、ギョウザ、シューマイ、サラダ、そして、持ち帰りずしなどの主食的品目の利用率が高かった。きんからごぼう、うの花、かじきなど、在来型そう菜の利用は西日本が多く、ゲラタン、ローストビーフなどのデリカ的品目、ハンバーガー、サンドイッチ、お弁当など、主食的品目の利用は、東京、南関東に高い傾向がみられた。2. 味への評価：各地区ともにおいしいと答えた比率が高かったのは、焼き鳥、ローストビーフ、ハンバーガー、赤飯で、コロッケ、ギョウザ、シューマイ、お弁当、ハンバーガーなどは、地域差が少なかった。まずいと答えた比率が高かったのは、ロールキャベツ、スパゲティー、茶巾蒸しで、サラダ類には、地域差が見られた。3. おもな購入場所：各地区ともに主食的品目は、そう菜店、食料品店、その他での購入が多く、デリカ的品目は、東京、南関東、西日本にデパートの利用が多かった。他の品目は、スーパーの利用が多く、北関東にその傾向が高かった。4. 利用時間：お弁当などの主食的品目は、昼食時に多く、他の品目は夕食時の利用が多かった。地区別に見ると西日本は昼食時に、北関東は夕食時の利用が高い傾向が見られた。